

山口県労福協機関紙 連合山口・労働金庫・こくみん共済coop山口推進本部・県生協連・13地区労福協

やまぐち労福協

vol.182
2021.1月号

一般社団法人 山口県労働者福祉協議会

〒753-0078 山口市緑町3番29号 TEL(083)925-7332 FAX(083)921-1650
Eメール roufuku@orange.ocn.ne.jp 発行人:山中 守・編集人:藤山 毅

今こそ、組合員の暮らしを守る 「つながる力」で 自主福祉運動の積極的な推進を



一般社団法人 山口県労働者福祉協議会

会長 中 繁 尊 範

新年明けましておめでとうございます。

皆様には、清々しい新春をお迎えのこととお慶び申し上げますとともに、県労福協の諸活動に対しますご支援・ご協力に心より御礼申し上げます。

さて、昨年は新型コロナウイルスの感染拡大により、社会・経済活動が急速に低迷し、雇用への影響が顕在化するなか、勤労者・生活者の健康や暮らしに深刻な影響をもたらし、「共助」「公助」の大切さや必要性を再認識した年でもありました。また、今年には東日本大震災から10年になります。昨年にも全国各地で自然災害が発生し、今、これまで以上に「より確かな備え」が求められています。

未だ、暮らしへの不安が心配される状況が続いていますが、組合員の健康と暮らしを守り、福祉の向上を確たるものにしていくためにも、今こそ、労働者自主福祉運動の取り組みをより積極的に推進し、可処分所得の向上を図っていかねばなりません。まさに今、労福協と労働組合の真価が問われています。県労福協としましても、“生活あんしんネット”、“しゅうなん若者サポートステーション”、“パーソナル・サポートセンター（PS）やまぐち”などの支援事業を通じて、より一層、共助の拡大に努めてまいります。そしてまた、連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会を実現させるためにも、労働団体や福祉事業団体、行政・NPO組織等との連携をより一層強化し、皆様方との「つながる力」で、暮らしの総合支援を始めとする労福協運動をより積極的に推進してまいります。

本年も、県労福協に対しますより一層のご支援をお願いするとともに、新しい年が皆様にとって幸多き年でありますよう、心からご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。



一般社団法人 山口県労働者福祉協議会

生活あんしんネット

しゅうなん若者サポートステーション

パーソナル・サポートセンターやまぐち



社会変革の動きを 県政へ

山口県知事
村岡 嗣政

明けましておめでとうございます。

すがすがしい新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げますとともに、山口県労働者福祉協議会の皆様にとりまして、本年がより良い年となりますことを、心からお祈り申し上げます。

また、中繁会長をはじめ貴協議会の皆様方には、平素から、県政の推進に格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症は、県内においても製造業をはじめ多様な業種へ影響を及ぼしており、また、感染症の収束が見通せない中では、先行きに対する不安の声も多く、更なる感染拡大を防ぎつつ、持ち直しの動きがみられる地域経済を回復基調に乗せていかなければなりません。一方で、感染の拡大を通じて、社会全体のデジタル化の動きが一気に高まるとともに、テレワークを始めとした、時間や場所にとらわれない「働き方の新しいスタイル」が広がりつつあるなど、私達の意識や行動には大きな変化が生まれています。とりわけ、デジタルトランスフォーメーション（DX）は変革の原動力となるものであり、これによって、県民生活や県内産業の活力を高めていくことができると考えています。私は、こうした社会変革の動きをしっかりと捉え、危機から生まれた変化をこれからの成長へつなげ、「コロナの時代」にあっても、活力に満ちた県づくりの取組を、力強くスピード感をもって前進させてまいります。どうか、貴協議会の皆様方には、引き続き、ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、山口県労働者福祉協議会のご発展と皆様方のご健勝、ご活躍を心から祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



「困難な時代」 英知を結集し 共に乗り越えていこう！

連合山口
会長 伊藤 正則

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、誰も想定すらしていなかった「新型コロナウイルス感染」が世界中に蔓延し、社会・経済のみならず、私たちの日常生活に対しても大きな影響を及ぼすこととなりました。特に私たちの暮らしに密接する雇用情勢については、あらゆる業種の活動が停滞する中で、解雇・雇い止め・離職者が急増している状況が続いています。中でも有期、契約、パートタイム、派遣等、弱い立場にある人ほど深刻な影響を被っている実態が浮き彫りになっています。このような時だからこそ、労働団体と福祉事業団体が共に強く連帯して、長年訴え続けてきた、「雇用と生活を守るセーフティネット」を早急に拡充するよう取り組みを強め、政策実現につなげていかなければなりません。

厳しい時こそ、労福協運動の原点である「共生・共助」の精神が重要となっています。「働くことを軸とし、誰もが取り残されることのない安心社会」を実現させるためにも、運動の価値を共有し合い、地域から共感の輪を広げるべく行動を、ともに展開していきましょう。

結びに、今、私たちを取り巻く環境は、決して容易なものではありませんが、あらゆる面で、「変化」をしっかりと見据え、みんなで英知を結集し運動に更なる工夫を加えつつ、この困難な時代を共に乗り越えて行こうではありませんか。

新しい年が、皆様にとって幸多き年でありますよう、心からご祈念申し上げます、年頭のご挨拶といたします。





明るい未来への
「お役立ち」！
期待に応える
〈ろうきん〉をめざして

中国労働金庫山口県営業本部
本部長 網戸 茂

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は、中国労働金庫に対しまして格別のご理解とご協力を賜り、心より感謝を申し上げます。

昨年、令和2年は、世界的な新型コロナウイルス感染症のパンデミックに脅され、日本経済は、あらゆる業種で売り上げの激減、生産活動の停滞が起こり、経済状況はリーマン・ショックを越える戦後最大の危機的状況となり、また、人の生命を奪い、人から仕事を奪い、そしてこれまでの日常を奪う大きな脅威となりました。加えて、コロナ禍の影響が長期化する中、非正規労働者やフリーランスが解雇・雇止めされるなど、社会的弱者である労働者の影響が顕在化するなど、生活不安を募らせ先行きは不透明な要因が多く存在しています。

そうした状況下、厳しい経営環境におかれている金融機関に対して政府が再編成圧力を強める中で、経営は、人口減少、超低金利の長期化という構造的な問題にコロナ禍の感染拡大が加わり好転の兆しは見え、将来的な資金需要の先細りなども影響し、個人金融市場はネット銀行を含めた競争が一段と厳しさを増しています。

こうした中で、中国労働金庫は、社会の仕組みや産業構造、生活スタイルなど、あらゆる面に変化が生じることを想定し、これまでの支援に応じていくために、既存の枠に縛られない政策展開が必要不可欠であることから、第7期中期経営計画は「持続可能なビジネスモデル」を構築していく3年間と位置づけ「非対面」を強化したうえで、当金庫ならではの「『対面』による『人』と『人』の繋がりを大切にすることで、明るい未来への「お役立ち」！そして期待に応える〈ろうきん〉をめざし、役職員が一丸となり会員・組合員の幸せにつながる取組みを邁進してまいります。

本年もよろしくお願ひいたします。



今こそ、
つながる未来
豊かで安心できる
社会の実現へ

こくみん共済coop山口推進本部
本部長 中繁 尊範

新年明けましておめでとうございます。

皆様には、清々しい新春をお迎えのこととお慶び申し上げますとともに、こくみん共済coopの共済活動に対しましてご支援・ご協力に心より御礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルスの感染拡大は留まることを知らず、多くの組合員・生活者の健康や暮らしに不安をもたらし、今なお社会・経済・雇用に深刻な影響をおよぼしています。影響を受けられたすべての方々に心よりお見舞い申し上げます。

また、昨年も全国各地で甚大な自然災害が発生し、9月の台風9・10号では本県においても1,200件を超える被災を受付けています。今年は東日本大震災から10年の節目を迎えますが、組合員の命と暮らしを守るためにも「防災意識の高まり」と「より確かな備え」を、これまで以上に追求していかなければなりません。

現在、こくみん共済coopはNew-Netzworkの取り組み課題として、新たな環境変化への的確な対応と事業・運動の回復を図るべく「推進体制の再編・整備」に着手しており、山口推進本部としても、この度の改革を機に「組合員満足度の向上」を、より確たるものにつなげてまいりたいと考えています。

こくみん共済coopを取り巻く環境は、依然厳しい状況にもございますが、労働組合が創り育ててきた“助け合いの共済生協”として、原点を忘れることなく、これからも皆様とともに「つながる未来、豊かで安心できる社会」の実現に努力をしまいる所存です。

本年も、こくみん共済coop山口推進本部に対しましてより一層のご支援をお願いするとともに、新しい年が皆様にとって幸多き年でありますよう、心からご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。



コロナ禍にあって 共助の組織としての 役割発揮を目指します

山口県生活協同組合連合会
会長理事 岡崎 悟

新年あけましておめでとうございます。

昨年も山口県生協連ならびに生協連加盟の13生協へご支援ご協力を賜りましたことに心よりお礼申し上げます。

2020年は、新型コロナウイルスが世界規模で急速に拡大し、これからの日本、世界の在り方に大変革を迫る危機を生み出した年となりました。コロナ禍により、格差拡大、米中や新たな国家対立、自国第一主義、保護主義的な思想やナショナリズムの台頭等の問題は一層先鋭化が進み、「分断の危機」

の深まりが危惧されています。我々の暮らし方や働き方においても大きな制約を受けることになり、健康上の問題だけでなく、経済的な困窮や差別や人権問題など様々な影響を個人、社会にもたらしています。

県生協連では、この未曾有の危機に対して各会員生協の組合員どうし、また、他の会員生協、他の団体等とのつながり、協同を強めることによって、この危機を乗り越えられるよう連合会としての役割を果たしていきたいと思えます。

コロナ禍は大変な危機ではありますが、ひるがえって大変革のチャンスとポジティブにとらえれば、将来に向けて整備すべきことに積極的にチャレンジできる時とも言えます。アフターコロナを見通して、今できることをしっかり進めていく年にしたいと思います。

どうぞ本年も旧年と変わらずご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2020年度地区労福協会長・事務局長会議開催

12月4日(金)
山口市で開催した
会議には、13地区
労福協の会長・事
務局長、連合山口・
中国労金山口県営



業本部・こくみん共済coop山口推進本部より計30名が出席しました。

中繁会長よりコロナ禍での県内各地からの出席と各地区労福協の日頃の諸活動に対し謝辞を述べた後、「今年度は、新型コロナウイルス感染拡大により雇用・所得への影響が深刻化を増している。こうした中、労福協は労働者自主福祉運動の大切さを発信し、豊かで安心できる社会をつくっていききたい。」と挨拶しました。

次に各地区労福協より今年度の中間活動と今後の取り組み予定の報告がありました。

コロナ禍の影響で、やむなく行事や会議を中止した地区もありましたが、参加人数を減らして合同推進会

議を開催したり、労働福祉セミナーのリモート開催や社会貢献活動として高齢者施設へ衛生用品の寄贈など、工夫した取り組みも報告されました。

続いて連合山口より2020年度の活動報告、中国労金より「コロナ禍での活動」、こくみん共済coop山口推進本部より「組織運営の今後のあり方」についてそれぞれ報告がありました。

会議終了後には、山口県ユニセフ協会への募金をお願いし、みなさまにご協力いただきました。